

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 \_\_\_\_\_ (有) ラッセル社 \_\_\_\_\_

ユニット名 \_\_\_\_\_ あつとほ一む四万十 \_\_\_\_\_

自己評価実施年月日 平成 19年 10月 20日

記録者氏名 \_\_\_\_\_ 太田成人 \_\_\_\_\_

記録年月日 平成 19年 12月 1日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	呆けても自分らしく生きられる。を理念に日々の暮らしをサポートしている。束縛、強制のない行動の支援に心がけている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日見る日誌の表紙や基本的認知症ケアの資料の中に理念を盛り込み、職員間で共有して理念に基づいた支援を心がけている。	○ スタッフ会議などで理念を掘り下げて話し合い、具体的なケアの方法について更なる意見の統一を図っていく
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	具体的な取り組みは行っていないがご家族には面会時に出来るだけ説明している。また散歩や買い物等地域の方との関わりを持ったり、通信などを活用しているがまだ浸透はしていない。	○ 地区の会合、地域の集まりやイベントに参加の他、折に触れて事業所の実践を伝えると共に通信等を地域の人に配り浸透を図る。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームを間に両隣が身内の関係もあり気軽に出入りが出来、近隣の方からも野菜を頂いたりふれあう機会が多い。また散歩や買い物等外出時には、あいさつ、立ち話、日々自然に行われている行動を大切にしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会、文化祭やお祭り、盆踊りなど地域行事は気にかけて入居者と共に出来るだけ参加している。	○ 地域住民の一員として地区の会合への出席し地域活動の情報を集め参加が出来ないか検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	質問、相談には随時応じている。また中学生の職 場体験学習の受け入れを行っているが、事業所側 から積極的な取り組みとしては行っていない。	○	開設後2年経過ではあるが、今後は実践内容を踏 まえて地域のさまざまな研修、会合に参加しなが ら認知症ケアの啓発に努めたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	お互いが充分理解できている。また注意事項や気 になることはその都度話し合いを行い、外部評価 の指導項目については出来るものから改善に取り 組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	会議では評価や取り組み状況については報告し理 解を求めている。ただ事業所側からの報告だけで 参加者からの率直な意見を引き出せていないのが 現状である	○	双方向的な会議になるように参加メンバーから質 問、意見、要望を引き出す工夫（ディスカッショ ンなど）をしながら、取り組みや改善経過のモニ ター役になって頂く。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	介護保険の認定調査などで担当者が来居したり、 毎月2回行われる担当者会議などでホームでの出 来事や状況報告を行うようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度、権利擁護が必要なケースではホー ム長、管理者が対応するため他の職員は理解して いない。そのため必要時に支援が出来る体制は 整っているとはいえない。	○	機会があるごとに説明したり、勉強会や研修等に 参加し制度や事業に対しての理解を深め職員全員 が支援できる体制を整えたい。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	普段から気をつけて、言葉の虐待にも注意してい る。ただ学ぶ機会を持っていないため、虐待行為 を発見した場合の対応方法について周知徹底でき ていない。	○	勉強会やスタッフ会議等で高齢者虐待防止法に関 する理解を深め遵守に向けた取り組みを行いた い。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、また退居を含めた事業所が対応できる範囲について説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言動から思いを察する努力をし、入居者中心の生活を心がけている。その時々入居者の不安、意見等は毎日の申し送りとその都度話し合いを行い解決を図っている。ただ外部者へ表せる機会には特別には設けていないため運営に反映させているとはいえない。	○  外部の人にも意見が伝えられるように、運営推進会議で入居者本人から意見や苦情が出やすいように働きかけたり、介護相談員が月に1度訪問できるように派遣要請を検討する。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	訪問時には口頭で伝え特に健康状態などは変化があればその都度連絡している。必ず最低月1回の家族の訪問は確保できている。また定期的に通信を発行し家族に見ていただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に、気にかかる事や要望があれば申し送りノートや口頭で他の職員にその都度伝えて気にかけて行動している。ただ同じ地域で、中には顔なじみの職員もおり率直な意見が引き出せていないのが現状である。	○  家族から率直な意見、苦情、不満などが言いやすい場面作りを家族の立場に立って職員会議等で話し合い安心して表せられる機会を積極的につくっていく。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議などで気になること等はないか質問しているが不満や苦情等は言い難い部分も多いのでなかなかその時には意見が出ていない。運営者・管理者共に職員の要望や意見を聞くように心がけてはいるが把握できているとはいえない。	○  月1回のスタッフ会議に1回ずつテーマを決め話し合ったり個別に面談を行うようにする。また日頃からコミュニケーションを図り率直な意見を引き出すように心がける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院等必要時には増員や、勤務時間の延長等で柔軟に対応している		
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所としての異動は少ない。離職はやむを得ないがそれが入居者のダメージには繋がらないよう最善の努力をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講演を依頼したりスタッフ会議等でも認知症ケアについて学習している。ただ計画は立てていない。		
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある他のグループホームの運営推進会議に出席し意見交換を行っている。また相互に訪問し入居者同士も交流している。ただ職員が交流する機会は持っていない。	○	学習会や相互研修会等で交流する機会を持つ。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みやストレスが把握できるよう努めてはいるがストレス軽減には至っていない。	○	日頃からストレスに繋がる要因に気を配り十分に話しができるよう定期的に個別面談を行う。また親睦の機会をつくり気分転換を図る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得など希望や要望を聞き可能なことは協力している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に出来る限り本人と話す機会を設け生活状態を把握し、信頼関係が築けるよう努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家族と話し合い状況把握に努めている。また事業所としてどのような対応が出来るか説明している。		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域のケアマネージャーなどと連携しながら迅速な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初は見学や、外出行事に参加してもらい徐々に慣れてもらいながらサービスを開始している。すぐに利用になった場合は、随時本人の意見を聞きながらサービスを実施し出来るだけ安心感を持ってもらうようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人に出来ることは出来るだけ本人にしてもらいお互いが協働しながら過している。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や必要時に本人の近況や悩みを連絡・相談し、本人を支えるよう情報を共有し協力を得ている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居以前の本人と家族との関係を理解しきっているわけではないが、本人と家族が孤立しないように電話で会話の機会を作ったり、本人の思いや状況等を見極めながら外出や外泊で家族と一緒に過ごす時間を作っている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	昔から通っている地域の理髪店に行き続けている入居者の方もおり本人の要望や内容に応じて出来る限り外出するようにしている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったりしながら入居者の関係性の把握に努めている。またその日の気分や感情で変化する場合も多く、注意深く見守っている。	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移られた方には面会に行ったりしている。契約終了後に継続的に関わりを必要とする利用者、家族には出来るだけフォローするようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉や表情等から意思の疎通に努め、本人の意向を把握するようにしている。また家族や関係者からも情報を得て、本人の意向に沿うよう検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や必要に応じて家族や関係機関から情報を集めて、これまでの暮らしの経過について把握に努めている。ただ馴染みの暮らしにはまだまだ出ていない。	○ プライバシーに配慮し、職員が本人や家族等と馴染みの関係を築きながら以前の暮らしに近付けるよう更なる把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中で入居者1人、1人の生活リズムを理解しその人全体の把握に努めている。出来ないことよりも出来ることを重視しながら声かけを行っている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃から思いや意見を聞き反映させている。また入居者の状態の変化に応じて申し送りやケアカンファレンスでアセスメントを含めて職員で話し合い介護計画の作成に活かしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については3ヶ月ごとに見直しを行っている。また見直し以前に問題がある場合は、本人・家族・必要な関係者と話し合い見直しを行っている。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や出来事に対する対応を個別に記録し、いつでも全ての職員が確認し情報の共有ができるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院（医療処置を受けながら生活の継続）等必要な支援は柔軟に対応し、個々が満足するように支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	事業所側から積極的な働きかけは行っていないため協力は得られていないが、消防訓練は年に1回は実施するようにしている。	○	運営推進会議への参加を呼びかけ意見交換したり、協働できるように周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかける。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月2回行われている担当者会議に出席して他事業所のケアマネジャーや保健師などと話し合い必要があれば他のサービス利用についても検討している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に支援センターの職員が参加するようになって協力関係を築いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所に移られる場合はケア関係者と十分に情報交換を行い本人、家族の不安軽減に努めている。機会があれば馴染みの職員が訪問している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ会議等で職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方などで気になることは申し送りでも話し合っているが職員によっては徹底できていない。個別の記録には個人名ではなくイニシャルを使用するなど配慮している。	○	職員が入居者に発している言葉や語調が入居者に対して誇りやプライバシーを損ねるものにならないように、日々の関わり方をその都度チェックし全職員が徹底する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者に合わせて声をかけたり、表情を読み取り、本人が決めやすい場面を作るようにしている。(更衣の際の衣類選び等)職員が強制しないよう心がけたい。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気持ちを出るだけ尊重して柔軟に支援している。ただ他の入居者に対する関わりもあり、都合で誘導しているときも見受けられる。可能な限りの支援は行うが、共同生活も考えなければならぬ。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の更衣の際に着る服を出来るだけ自分で選んでもらい、職員は見守りや介助が必要な際に手伝っている。カットについては家族や職員と一緒に本人に馴染みのある床屋や美容院へ出かけている。また入居者の状態によっては職員が行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けに至るまで食事一連の流れを一緒に行い同じテーブルで楽しく食事が出来るよう雰囲気作りを大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好品について理解し出来るだけ楽しめるようにしているが、本人の健康状態や入居時に家族からの要望もあり支援できていない。ただタバコを吸う入居者にはタバコは職員が預かり、換気のよい場所で吸ってもらうようにしたり、他の入居者への配慮もしている。	○
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用して時間や習慣を把握している。また尿意がない入居者についても時間を見計らって誘導し、トイレで排泄出来るようにしている。出来るだけオムツなどは使用せず個々の状態に合わせてパッドなどで対応している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のその日の希望を確認しながら毎日入浴を支援している。時間帯については職員の勤務時間の関係と入居者の体調に配慮し食事前に行っている。	○ 本人の希望に沿った時間に入浴出来るように職員のローテーションなどを調整する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	数日間の活動や出来事などを考慮し本人のペースや疲れ具合などにあわせて個別に休息できるように支援している。また薬剤等を使用する場合は家族等とよく相談し、個別のケース記録をもとに医師と相談して調整している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活リハビリを基本とし毎日の生活の中で入居者に強制するのではなく、本人に合わせて自然な流れの中で役割がもてるように仕事を頼み感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、時々皆での外出やドライブなどで気晴らしの支援を行っている。	○	限られた入居者が行うことが多く特に男性は役割が持てる場面作りが出来ていない。一人ひとりの生活歴などから出来ること出来ないことを見極めて場面作り、雰囲気作りが必要である。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している入居者の方は限られていたが本人の希望もあり事業所が管理するようになったため支援できていない。	○	全員がお金を持てるよう家族へ協力を求め再度管理方法について検討する。また買い物の際の支払いなど本人の力に合わせて支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望にあわせて近所へ散歩に出かけ近所の方と挨拶を交わしたり、季節感が感じられるよう支援している。また日常的に買い物やドライブなどにも出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	可能な限り希望に添えるように支援している。 (個別に行きたいお店へ出かけたり、要望があれば一時的に自宅へも出かけている。お祭り等は家族と共に参加する入居者もある)		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は少ないが自分から利用したいと要望があれば必要に応じて支援している。ただ電話しやすい雰囲気や場面作りは出来ていない。	○	単なる取次ぎではなく電話や手紙が個々の希望に沿っていつでも使用できるように環境を整え、声かけを行うと共に会話が他の入居者に聞こえないようプライバシーにも配慮していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特別な工夫はしていないが、来ていただいた方へは笑顔で接するよう心がけたい。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	しないように心がけているが、転倒、身体的に悪化し介助のためどうしても行わないと入居者本人に負担がかかる場合には家族と相談、承諾を得ている。ただ全ての職員が身体拘束の内容とその弊害について認識が出来ているとはいえない。	○	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し職員で共有する。また日々の申し送り等でその日のケアを振り返り自覚しない身体拘束が行われていないかのチェック体制を作る。
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないよう心がけている。入居者個々にある癖や傾向等を把握し、外出する際は職員同士が声を掛け合い入居者にさりげなく声をかけ、付き添い安全面に配慮している。ただ職員が鍵をかけることの弊害を理解しているとはいえない。	○	外出しそうなになった際の声かけやコミュニケーションの方法について更なる配慮が必要であり、鍵をかけることの弊害について職員全員の周知徹底を図る。
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録や作業をする際に全体が把握できるよう場所に配慮し、入居者状況の把握に努めている。夜間については2～3時間ごとに巡回し安否確認、また適宜トイレ誘導を行い安全に配慮している。ただ不意の行動に迅速に対応できないときがある。	○	入居者を常に意識して所在を把握すると共に不意な行動やサインを察知し迅速に対応できるよう昼夜を問わず状況が最も確認しやすい位置で見守り、また作業を行うことに努める。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特別な管理体制はないが全てを取り除いたりはない。注意が必要なものについては入居者の状況などの変化に応じて使用時に見守っている。	○	今までは大丈夫だったが今後のことも踏まえて管理体制についてはスタッフ会議で話し合う。ただ注意が必要な物品を排除するのではなく入居者の状況を十分に把握し危険を防ぐための取り決めに検討していく。
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し職員の共有認識を図っている。また事故が発生した場合には事故報告書を作成し今後の対策について検討し、家族への説明、報告を行っている。	○	原因や具体的な対策についてはその都度申し送り等で話し合っているが防ぐための知識については学習していない。今後は勉強会などで更なる事故防止に努める。
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	目に付く場所に対応方法や緊急時連絡網を貼り周知徹底を図っているが、急変や事故発生時に全ての職員が確実かつ適切な行動がとれる訓練は行っていない。	○	行政や消防に協力を得て応急手当の訓練を実施し全ての職員が対応できる技術を身につける。
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	対策についてはマニュアルを作成しているが、いざという時の対応方法については不安がある。また避難訓練などを定期的実施できていない。	○	消防署に依頼して総合的な避難訓練を実施する。また日頃から近所との関わりを持ちいざという時の協力が得られるよう働きかける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	訪問時に気がついたことは報告し実際に見てもらったり、その都度対応策を説明し話し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い、常に顔色や様子等から兆候を見逃さないようにしている。また状況によって医療受診している。	
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解していない。ただ薬の変更などがあつた場合はいつもより注意して観察し記録している。また服薬時は本人に手渡し、服薬できているかを確認する。	○ 職員全員が薬の内容を把握出来るようにわかりやすいシートを作成する。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	常に気にかけて繊維質の多い食材を使用したり、散歩や生活リハビリ等で自然排便を促している。どうしてもだめな場合は服薬、坐薬等で対応している。	
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に歯磨き、うがいを声かけして個々に職員が見守り、介助している。就寝前は義歯の洗浄を行っている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については個々の嗜好を把握して献立に取り入れるなど配慮し、水分摂取については習慣づけるため日頃から食事やおやつ以外でも何らかの行動の後に声をかけることを職員が意識して一緒に飲むなどの工夫をしている。ただ食事量や水分の摂取状況についてのチェック表は作成していない。	○ 摂取状況を職員全員が把握しバランスよく摂れるように常に意識しながら柔軟に対応するよう勤める。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	個々の感染症についてマニュアルを作成し予防、対策に努めているが完全ではない。	○	職員の出勤時、外出後の手洗い、うがいの励行を徹底しマニュアルについては勉強会など話し合いの機会を作り職員全員が理解を深める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具やまな板、ふきん等は清潔・衛生を保つよう職員で取り決めて実行している。冷蔵庫も点検、掃除し食材の賞味期限の厳守、また冷凍・冷蔵の区別保存に配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般家庭と同じような雰囲気玄関で入り口は段差のないスロープになっており誰でも安全に出入りが出来るように工夫している。また玄関ドアを開けるとワンフロアになっており、すぐ対応できる気安さがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や室温により、その都度天窓の開閉やカーテンを引く等の配慮をしている。また玄関には水槽を置いたり居室や洗面所には花を活けるなど季節感を採り入れる工夫はしている。ただ浴室については夕陽が強く入浴時間と重なるため心地よいとはいえない。	○	浴室の窓をすだれ等で夕陽が当たらない工夫をし心地よく入浴できるようにする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、玄関前に椅子やソファを置き自然と気の合う方同士が集まって寛いでいる。また畳の間も設けており冬季にはコタツを置くなどして、居心地の良い空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家具や寝具等はなるべく使い慣れたものを持ち込 んでもらっている。またそれぞれの入居者のスタ イルに合わせてカーペットや仏壇等を置いて落ち 着いて過せるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	フロア、トイレは換気扇が設置され24時間換気 を行い、掃除の際には一斉に窓を開けて空気の入 れ替えも行っている。また気温や湿度に留意し外 気との温度差がある時には温度計や入居者の様子 を見たり聞いたりしながら調整している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて廊下、脱衣所、居室、浴 室などに手すりを取り付けたり福祉機器などで対 応し、安全に出来るだけ自立した生活が送れるよ うに意識している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	入居者の状況に合わせて、紙パンツやパッドなど は自由に交換出来るようにしたり、交換後の処理 がしやすいよう居室にバケツを設置したりしてわ かる力を活かせるように工夫している。今後、本 人のわかる力については入居者との関わりを深め 更なる気づきを追求する。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	バルコニーに椅子を設け外気浴をしたり、プラン ターに花を植えて楽しむなど活用している		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は日々入居者との信頼関係を築きながら自宅とかわらないアットホームな雰囲気作りを目指してケアしています。生活リハビリを中心に時間や日課に縛られずゆっくり、のんびりと生活が出来るように1人1人のペースに合わせて援助し、束縛、強要のないよう職員は心がけています。またいつでも外に出られるように玄関は夜間以外は鍵をかけず、随時本人の意思を尊重しながら柔軟に対応しています。